

今号は次世代を担う仲間たち vol.3 をお届けします。お話を伺ったのは、株式会社三国工務店（以下「三国工務店」という）の二代目三国 昭さんと三代目の三国 宏輔さん。

昭さんは現在、住まい塾賛助会の会長を務められています。宏輔さんは昨年からは工務店を手伝いながら、職業訓練校で大工の勉強をされています。

89号では、昭さんの住まい塾との出会いなど三国工務店のことをお話しいただきました。三代目の宏輔さんのお話については次号の掲載となります。

住まい塾だより編集委員

「三国工務店 二代目から三代目へ」

次世代を担う仲間たち vol.3

◆まず二代目に伺いますが、生い立ちをお聞かせください

二代目（三国 昭さん）：東京で工務店を営む家庭に生まれ育ちました。小学生の時は父のトラックに乗って現場についていたりしていたが、大工の仕事にはあまり興味はありませんでした（初代は新潟佐渡ヶ島出身。25～26歳で大工となり昭和30年世田谷で三国工務店をはじめた。新潟や北海道から来た住み込みの若い衆が3～5人いた）。



サラリーマン（建材会社）の仕事を8年経験。その後2年半、数寄屋建設にお世話になります。（この話は後ほど）

◆住まい塾に興味を抱いた原点としての幼少時代

二代目：父の実家の佐渡ヶ島に子どもの頃長期休みによく預けられていたのですが、祖父母が住んでいる築100年の昔ながらの古民家の雰囲気が好きでした。骨太の梁、柱と黒光りした松の床板。それが住まい塾の建物と重なったことが原点になっているように思います。

◆住まい塾との出会いをお聞かせください

二代目：1987年頃に新聞の小さな記事を妻が見つけ住まい塾を知りました。当時は工務店を継ごうとは考えてもいなかったのに妻にはそんな話もしていなかったのですが、妻は私が住宅に興味があったことを感じていたのかもしれませんが。その後、住まい塾に連絡をとり、高橋代表に会い養成塾に入りました（初期で当時は現スタッフ門田さんや鈴木さんも参加）。サラリーマンをしながらでしたが、この時に住まい塾の仕事に魅力を感じ、住宅建築も面白いなと思いました。2年程度塾生として参加し、この頃から実家に入って建築をやってみようと思いつき、勤めていた会社を退職しました。仕事を辞める前に高橋勉さん（大工棟梁）の現場を訪れていろいろ話を聞き、興味深くなったこともきっかけの一つです。更に施工者として勉強するために数寄屋建設を紹介してもらい、数寄屋建設（群馬県前橋市）の近くに家族で引越し、2年半お世話になりました。この時長男（宏輔さん）はまだ2～3歳でした。

◆数寄屋建設現場監督修業時代

二代目：数寄屋建設さんにお世話になった同時期、高橋勉さんも数寄屋建設の大工棟梁でした。勉さんは養生がしっかりとされ、現場がきれいで、几帳面な仕事をされていました。後に寿左官の渡邊さんが、ここまで大工さんがやっているのなら自分もこういう仕事をしなきゃいけないと思うと言っていたのが印象的でした。

◆三国工務店の事務所は住まい塾で設計した建物だそうですね

二代目：世田谷区に1993年に完成した住居兼事務所で、長男（宏輔さん）が中学生の時に2世帯住宅として住み始めました。（自宅の印象については後半に宏輔さんからお聞きしています）

◆三国工務店として住まい塾の仕事を始めた頃の話をお聞かせください

二代目：1995年から高橋勉さんと一緒に三国工務店で住まい塾の仕事を始めました。ちょうど今年で30年になります。住まい塾の仕事で印象に残った建物はやはり初期の頃の建物ですね。

◆親子2代で仲良く仕事をされる秘訣は

二代目：外の飯を食うことは大事。最初から親子でやるというのはあまりよくないと思うし、甘えが出ます。親子でやっている職人さんも多いですが大工さんにしても、最初から親父さんの下におくのではなく、一度外に出ることがよい。そのワンクッションがあることで、お互い相手に対する配慮が生まれてくるのではないかと思います。

三代目（宏輔さん）：親子だからという良し悪しはないように思う。お互いの性格もあり、相手の仕事の仕方などについてあまり口を挟まない。

◆工務店としてやってよかったと思う時は

二代目：できたときにお客さんに喜んでもらえ、よかったといってもらえるとよかったと思う。

三代目：お客さんに喜んでもらった時。まだ始めたてなので、自分で扉一枚でもつけられたときは嬉しかった。

◆設計事務所と仕事することについて

二代目：いろんな施主がいるので、一度設計者のフィルターにかかってから施工者にくるので、助かっている部分があります。工務店が直接施主から受ける仕事の方が難しく感じる時があります。

◆今後について

二代目：自分のやり方をみつけてほしい。自分も父のやり方と全然違うので変わっていいと思います。

三代目：これから探していきます。

引き続き三代目の宏輔さんのお話をお聞きしています。次号をご期待ください。

住まい塾の“押し” 鋳物ホーロー浴槽

お風呂は疲れた体と心を休める場所、人が一番無防備になるシーンですから 自然素材できているものを選びたい。鋳物ホーロー浴槽は「鉄」と「ガラス」できているので、型の素材も「砂」を使い、化学原料を使っていません。

ユニットバスが主流の現在ですが、使い続けて行きたいものの一つです。

◆お手入れについて

鋳物ホーロー浴槽は高い硬度ゆえに傷がつきにくく、汚れが滞留しにくいので、普段はスポンジで水洗いのみで菌・汚れを洗い流すことができます。汚れた場合は、中性洗剤をスポンジに含ませて洗います。クレンザーで強くこすると傷がつくことがあるので、ご注意ください。毎日の掃除は欠かせませんが、日々のお手入れが簡単で、いつまでも清潔な浴槽です。

